

「研究大学強化促進事業」令和3年度フォローアップコメント

機関名	フォローアップコメント
広島大学	<ul style="list-style-type: none">○システマティックな研究マネジメントが実施され、URA による IR や研究費申請などへの貢献を通じて、大学が掲げた数値指標を着実に向上・達成させていることは高く評価できる。○「教員メンター制度」はユニークな試みであり、今後 URA とメンターが協力し、更なる推進が図られることを期待する。○コロナ禍において、研究支援専門職の国際大会「INORMS」をオンラインで開催したことは評価できる。今後、当該大会の内容を国内の URA に共有するとともに、海外の URA と情報共有する機会が創出されることを期待する。

令和2年度(2020年度)フォローアップ結果への対応状況と今後の事業展開について

機関名	広島大学				
統括責任者	役職	学長	実施責任者	部署名・役職	理事・副学長(学術・社会連携担当)
	氏名	越智 光夫		氏名	安倍 学

令和2年度(2020年度)フォローアップ結果

○強化方針5項目を踏まえた各種の意欲的な取組が、国際共著論文率の増加などに反映されていると考えられ評価される。なお、世界ランキングトップ100を目指すには、高注目度論文を増やす必要があり、今後の論文の質の向上のための更なる取組に期待したい。

○「強化方針03：若手研究者等イノベーション研究人材の育成」について、若手教員の採用枠の優先確保や、広島大学教員メンター制度の新設など、総合的に環境整備がされており評価される。

○独自指標としてSDGsを紐づけた貢献度の指標づくりに取り組んでおり、社会課題とのマッチングにより地域及びグローバルな社会課題解決に繋がることに期待したい。

○OURAの国際会議「INORMS2021」は、我が国のURA制度の将来の発展において大きな力となると考えられ、より適切な方法により開催されることに期待したい。

将来構想の達成に向けた現状分析

将来構想1【広島大学の新長期ビジョン「SPLENDOR PLAN2017」に掲げた『持続可能な発展を導く科学』を実践する世界的な教育研究拠点へと発展】

① 令和2年度(2020年度)フォローアップ結果への対応状況

広島大学の強化方針の5項目(下記参照)に取り組むため、引き続き、本学独自の指標であるAKPI®、BKPI®のモニタリングやIR分析を通じて強い研究分野を明らかにし、世界的な教育研究拠点の構築と教員人事の全学一元化による戦略的な人員配置を進める。

URA活動においては、引き続き、若手教員の異分野融合研究の仕組み作りや国際研究ネットワーク構築支援、科研費及び大型プロジェクトなどの外部資金に係る申請・獲得支援を行い、研究時間確保を含めた研究力強化に資する取り組みを実施する。

広島大学の新長期ビジョン「SPLENDOR PLAN2017」に掲げた『持続可能な発展を導く科学』を実践する世界的な教育研究拠点へと発展

1 強化方針01：高度なIR機能の活用と優れたURAの育成

2 強化方針02：国際的学際・融合拠点への進化

3 強化方針03：若手研究者等イノベーション研究人材の育成

4 強化方針04：国際共同研究を加速させるネットワークの拡充

5 強化方針05：グローバルな協働を基盤とした社会連携の推進

上記の取り組みに加えて、フォローアップ結果の各コメントに対応した主な取り組みと反映状況を、以下に記載する。

○IRデータを活用した定量分析の結果、2020年度の教員一人当たり国際共著論文比率は35.1%（昨年度比

3.3% 減)と減少しているが、2016-2020年の5か年平均は34.69% (昨年度の5か年平均比1.4%増)と増加しており、さらに、教員一人当たりSCI論文数は1.50報 (昨年度比0.15報増)と着実に増加している。

これに関連して、2019-2020年度のコロナ禍による学術論文数の影響の有無を、教員向けの定性調査を実施した結果、回答者の約3人に1人の割合で発行論文数に影響があるとの回答があり、主な影響内容は、授業等のコロナ対策による論文執筆にかかる時間減少、対面による実験の遅延、国内外の出張制限、国内外の学会中止など対面制限の影響が多くあげられた。

広島大学では、すでに2021年1月に広島大学DX推進基本計画を策定しており、教育・学習データの活用と教育コンテンツのデジタル化、研究データ管理、事務業務の事業継続と高度化など、すべてがデジタル化されることを前提に、教育・研究形態そのものを変革し、コロナ禍に対応した、新たな価値創造が可能な教育・研究環境を整備していく。個人情報の取り扱い及び情報セキュリティ対策の一層の強化を図りつつ、教育・研究の多くをICTシステム上で完結させる方針である。

今後は、強化方針の5項目の具体的な取り組みに加え、広島大学DX推進基本計画を具体化して推進することにより、研究時間確保とともに、安心して最先端的な研究を推進することで、質の高いSCI論文数や国際共著論文比率の向上につなげる。

○優秀な若手研究者・女性研究者・外国人研究者が活躍できる魅力的な教育研究環境を整備するため、若手研究者の研究スタート支援の一環とした全学共用機器等のマネジメント体制の構築や、全学的メンター制度、研究費支援を実施してきた。

2021年度からは、これまで部局毎に実施していた教員個人評価制度を見直し、新たに設定する全学統一の教員活動指標 (Professional-Indicator) を活用した教員個人評価制度の導入や、IRデータを可視化する新たなシステム導入し、URAの詳細なシーズ把握と分析に活用する。

安定的に教育研究に専念できる教育研究環境の整備を推進することにより、教員の高い意欲を維持し充実させる。

○これまでの広島大学の取り組みが、国連のSDGs (持続可能な開発目標) の枠組みを用いた、大学の社会貢献の取り組みを可視化するランキングである「THE 大学インパクトランキング2021」(イギリスの高等教育専門誌Times Higher Education 2021年4月21日発表)において、総合スコアで『国内1位』、SDGs項目別でも5項目で『世界Top100入り(国内1位)』を獲得し、国際的にも非常に高い評価を得ている。

今後は、小泉環境大臣、新谷総務副大臣からも期待のメッセージをいただいている、東広島市とまちづくりの社会課題を解決するTGO (「Town & Gown Office」) 構想を推進し、広島大学「カーボンニュートラル×スマートキャンパス5.0宣言」にある、「通勤・通学を含めたキャンパスで使うエネルギーカーボンニュートラル化」と「高規格5Gネットワーク網を基盤としたSociety5.0を実装したスマートキャンパス5.0化」の実現に向けて、まちやキャンパスを活用した最先端技術の実証実験 (2021年3月開始 キャンパス内の自動運転シャトル運行「HIROMOBI」等) や、国内外を含む様々な産学官との共同研究等を推進する。

その他、SDGsの社会課題から教員にリーチできるよう、SDGs目標から関連する教員情報の検索を可能にした「研究者ガイドブック」を2021年7月よりWEB公開し、学外機関と教員のマッチングを促進する環境整備を進める。

これらの具体的な取り組みを一体的に進めることで、SDGsを意識した社会課題と学内シーズを効果的にマッチングすることにより、地域及びグローバルな社会課題解決につなげる。

○2020年5月に広島県で開催予定であったURAの国際会議「INORMS2020」の準備を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期し、2021年5月に改めて「INORMS2021」としてオンラインで開催した。49か国から計509人が参加し、国際的なレピュテーション向上とともに、URAの国際ネットワークを強化・拡大に大きく貢献した。

これらの取り組みを総合的に推進することにより、広島大学の新長期ビジョン「SPLENDOR PLAN2017」に掲げた『持続可能な発展を導く科学』を实践する世界的な教育研究拠点への発展に着実に繋げていく。

② 現状の分析と取組への反映状況

将来構想においては、本ビジョンやこれまでの研究力強化の取組状況等を踏まえ、上述の5つの強化方針を掲げ、更なる研究力強化に向けて実効性のある取組を継続的に実施することとしている。

以下は、フォローアップ結果の各コメントに対応した具体的な取り組みを中心として、5つの強化方針に即して記載する。

【(強化方針01) 高度なIR機能の活用と優れたURAの育成】

【(強化方針02) 国際的学際・融合拠点への進化】

【(強化方針02-1) 世界的研究拠点の継続的創出】

○IRデータを活用した定量分析の結果、2020年度の教員一人当たり国際共著論文比率は35.1%（昨年度比3.3%減）と減少しているが、2016-2020年の5か年平均は34.69%（昨年度の5か年平均比1.4%増）と増加しており、さらに、教員一人当たりSCI論文数は1.50報（昨年度比0.15報増）と着実に増加している。これに関連して、2019-2020年度のコロナ禍による学術論文数の影響の有無を、教員向けの定性調査を実施した結果、回答者の約3人に1人の割合で発行論文数に影響があるとの回答があり、主な影響内容は、授業等のコロナ対策による論文執筆にかかる時間減少、対面による実験の遅延、国内外の出張制限、国内外の学会中止など対面制限の影響が多くあげられた。

広島大学では、すでに2021年1月に広島大学DX推進基本計画を策定しており、教育・学習データの活用と教育コンテンツのデジタル化、研究データ管理、事務業務の事業継続と高度化など、すべてがデジタル化されることを前提に、教育・研究形態そのものを変革し、コロナ禍に対応した、新たな価値創造が可能な教育・研究環境を整備していく。個人情報取り扱い及び情報セキュリティ対策の一層の強化を図りつつ、教育・研究の多くをICTシステム上で完結させる方針である。

また、2018年6月に新たな超学際研究領域を形成するための取組みとしてPeace and Sustainabilityのためのネットワーク拠点「広島大学FE・SDGsネットワーク拠点」を設置、2019年5月に国立研究開発法人理化学研究所との「広大一理研科技ハブ連携拠点」を設置した。2020年4月には国内外トップ研究者が参画する連携研究拠点「国際アフェクトーム（感情）研究センター」の設置や、異分野融合研究の創出や様々なアクターとして海外の外国人教員計4名（アメリカ2、スウェーデン1、中国1）をクロスアポイントメント制度で現地雇用し、広島大学FE・SDGsネットワーク拠点をハブとして海外と繋ぐクラスターを形成した。学内外、国内外の連携機関との協働を通じてネットワーク化を図ることで、これまでの研究拠点形成システムにより設置した本学の特色ある自立型拠点・インキュベーション拠点に変化・変革を求め、「新たな価値創造」を模索し、持続的にその時々々の社会課題解決に貢献する研究拠点の創出を促していく。

一方で、基盤的な環境整備の一環として、2021年度からIRデータを可視化するシステムを運用開始し、URAのシーズ把握と分析等に活用する。その他に、社会課題から教員にリーチできるよう、IRデータを蓄積する教育研究情報収集システム（DWH）にSDGs目標情報を付加することにより、SDGs目標情報から教員検索

を可能とした「研究者ガイドブック」システムをWEB公開（2021年7月開始）し、学外機関と教員のマッチングを促進する環境の整備を進める。

URAの育成においては、2020年度に引き続き、特許庁事業「知財戦略デザイナー派遣事業」を通じた「目利き人材」としての人材育成を行い、中核を担う研究マネジメント人材であるURAの普及定着に資するキャリアパス制度を活用しURA人材を拡充することで、質的かつ量的に研究支援体制を強化する。

今後は、これらの総合的な研究支援体制強化の取り組みにより、教員の研究時間確保や研究環境等を整備し、質の高いSCI論文数や国際共著論文比率の向上につなげる。

【（強化方針 03-1）若手研究者が研究に専念できる環境の構築】

○若手教員比率、女性教員比率、外国人教員等比率は、順調に向上している。設定した成果目標の達成に向け、引き続き若手教員の採用枠を優先して確保するとともに、2019年度から開始した最大3年間の雇用とする「育成助教制度」を活用して次世代を担う研究者として活躍する若手教員を育成する。2020年度からは本学に採用される全教員にメンター教員を配置する広島大学教員メンター制度を新設し、着任後の教員を孤立させず教育研究活動をスムーズにスタートできるよう支援を実施している。また、本学に採用されたテニユアトラック助教には新任教員研修プログラムの受講を求め、受講者にはスタートアップ経費を支援する制度も開始している。

また、教員の高い意欲を維持し充実させるとともに、安定的に教育研究に専念できる教育研究環境を確保するため、これまで部局毎に実施していた教員個人評価制度を見直し、2021年度から、新たに設定する全学統一の教員活動指標（Professional-Indicator）を活用した新たな教員個人評価制度を導入した。今後、2022年度までに検証し、必要に応じて見直しを行い、教員の活動実績を、新評価制度により適切に評価し、給与反映するよう仕組みづくりを推進していく。

さらに、2020年度に、競争的研究費に関する制度改善として、プロジェクトで雇用される若手研究者の自発的な研究活動等の取扱、エフォート管理の運用統一、複数の研究費制度による共用設備の購入（合算使用）の取扱、直接経費から研究代表者（PI）の人件費の支出、直接経費から研究以外の業務の代行に係る経費を支出可能とする見直し（バイアウト制度の導入）について整備し、運用している。

【（強化方針 05）グローバルな協働を基盤とした社会連携の推進】

○グローバルな協働を基盤とした社会連携の推進のため、URAと産学連携部門が連携し、互いが持つ研究シーズ・ニーズの共有や新たなプロジェクトの立ち上げに取り組む。特に、2018年度に大学間交流協定を締結したアリゾナ州立大学とアリゾナ州テンピ市との取組を参考に、2020年度に本学と東広島市が協働してTown & Gown office 準備室を設置した。

今後は、広島大学「カーボンニュートラル×スマートキャンパス 5.0 宣言」にある、2030年までに、「通勤・通学を含めたキャンパスで使うエネルギーカーボンニュートラル化」と「高規格 5G ネットワーク網を基盤とした Society5.0 を実装したスマートキャンパス 5.0 化」の実現に向けて、共同事業の日常業務化、エビデンスに基づく政策・行政、外国人との共生モデルタウンの形成とグローバル教育産業の誘致、アントレプレナーのエコシステム形成、イノベーション人材育成・支援を行う。研究分野においては、まちやキャンパスを使った最先端技術の実証実験（2021年3月開始 キャンパス内の自動運転シャトル運行「HIROMOBI」等）、国内外を含む様々な産学官との共同研究等を推進する。

なお、アリゾナ州立大学とは、2020年10月にアリゾナ州立大学のキャンパスを広島大学内に設置する国立大学で初めての取り組みを実施しており、グローバルな協働を基盤とした社会連携の推進が大きく前進しているところである。

【(強化方針 04-1) 国際的な存在感の向上 - 指標⑧INORMS2021 の開催】

○2020年5月に広島県で開催予定であったURAの国際会議「INORMS2020」の準備を進めてきたが、新型コロナウイルスの影響により延期した。2021年5月に改めて「INORMS2021」としてオンラインで開催し、49か国から計509人が参加し、国際的なレピュテーション向上とともに、URAの国際ネットワークを強化・拡大に大きく貢献した。今後は国際ネットワークをさらに拡大・活用して、国際共同研究や国際共著論文の組成につなげていく。

その他に、2021年度以降、URAのための研究データ基盤の整備・構築として、分野や機関の枠を超えた共同研究を企画・立案・推進していくため、他機関と参画する研究大学コンソーシアムにて、URA同士が協働する共創の場が用意され、共同研究相手となる研究者を探すためにURAが必要とする研究者情報・研究支援情報を共有するなど、URAの協働を効果的にすすめるDXプラットフォームの構築が進められている。広島大学では、本学における研究支援DXの推進およびDXプラットフォームとのデータ連携を検討するとともに、本学のURAや研究支援に関するデータ（研究者のシーズ・ニーズ情報等）について、戦略的に取捨選択し、学内調整を経たうえで、DXプラットフォーム上で共有するなど、本DXプラットフォームの試行に参画する。さらに、研究大学コンソーシアム・異分野融合タスクフォースにおいて、DXプラットフォームに関するディスカッションに参加し必要な情報交換や討議を行う。

ロジックツリー・ロードマップの利活用・横展開状況

ロジックツリー・ロードマップについては、学長、役員、全研究科長等で構成する学術・社会連携推進機構会議において、アウトカムと成果目標の確認及びロードマップに係る認識の共有を行っている。また、研究科長は各研究科に持ち帰り、教職員に情報共有を行っている。

ロジックツリーで設定した指標は、学術・社会連携担当理事、担当URA、各研究科長等と共有し指標達成のための取り組みについて議論を行っている。

URA部門においては定期的にURAミーティングを開催しており、ロジックツリーと各URAの業務との関連を整理し業務の重要度や優先度を定めるツールとして活用し、成果目標達成のための取り組みを進めている。なお、このURAミーティングには事務職員も参加し意見交換と情報共有を行っている。

2020年4月の大学院再編によって4研究科に大きくくり化され、各研究科に研究推進委員会を設置、URAを効果的に担当として配置することができた。研究推進委員会には各担当URAが陪席し、ロジックツリー・ロードマップなどにより定期的に研究力・研究成果の質・量ともに向上する戦略・方策について議論し、その結果や研究成果指標のモニタリング結果等を執行部に報告している。

特筆すべき事項（定性的な現状・取組状況等）

広島大学では、URAと事務職員が同じ部門に所属しており、教育研究に関する知識・経験を持つURAと、大学運営や事務手続きに強みを持つ事務職員が互いに協力しあう環境を整えている。

研究に関する業務は、国際関係、広報関係、図書館、社会・産学連携、知財部門など、様々な業務組織に関係することから、URAが各業務組織と協働し、大学全体の課題解決に取り組んでいる。

これらのURA活動は全学に認知され、外部資金の獲得や研究拠点・ネットワーク形成に確実につながっている。支援を受けた研究者個人からも、外部資金の獲得に繋がった、URAにより新たな研究テーマによる展開がはかられ研究者コミュニティへの参画・拡大に繋がった、などの声が届いており、URAは大学及び研究者にとってなくてはならない存在になっている。今後は、RA協議会の年次大会、上述のURA国際会議や研究大学コンソーシアム等への参加を推進することで、さらなる国際ネットワークの強化・拡大や、URAの

スキル向上の取り組みを強化し、研究支援体制を充実させる。 広島大学には学術研究を推進し URA が所属する学術室と、産学連携を推進し産学連携コーディネーターが所属する社会産学連携室の2つの組織があったが、2019年度に2組織を統合し、学術研究と産学連携が共創する組織である学術・社会連携室を設置した。URA と産学連携コーディネーターがチームを組んで連携し、研究情報の収集・分析による研究シーズの発掘から、企業・地域ニーズとのマッチングや橋渡しまでを一貫して支援する体制が構築された。

強化方針01に関連して、2020年6月にIR本部を設置した。このIR本部では、学内外データの集積と可視化を実現するための本学独自のIRプラットフォームである「IR.dashboard」等のエビデンスデータを最大限活用しつつ、大学執行部への政策提言や部局長をはじめとする部局構成員への情報提供を行うこととしている。また、本ロジックツリー・ロードマップを大学執行部や部局長等に共有することで全学的なEBPM (Evidence Based Policy Making : エビデンスに基づく政策立案) を推進し、透明性を担保した大学経営の実現を目指している。

強化方針04-1に関連して、2021年度中に、「東広島キャンパス・国際交流拠点施設」(鉄筋コンクリート7階建て、延床面積3954㎡)が完成予定である。本施設は、イノベーション創出、内外の多様な人々との交流と知識の循環、海外のトップ研究者や優れた留学生に対する安全で快適な居住空間の提供など複合的な機能を持ち、国際的研究拠点東広島の形成に向けた「知の拠点」を形成する。

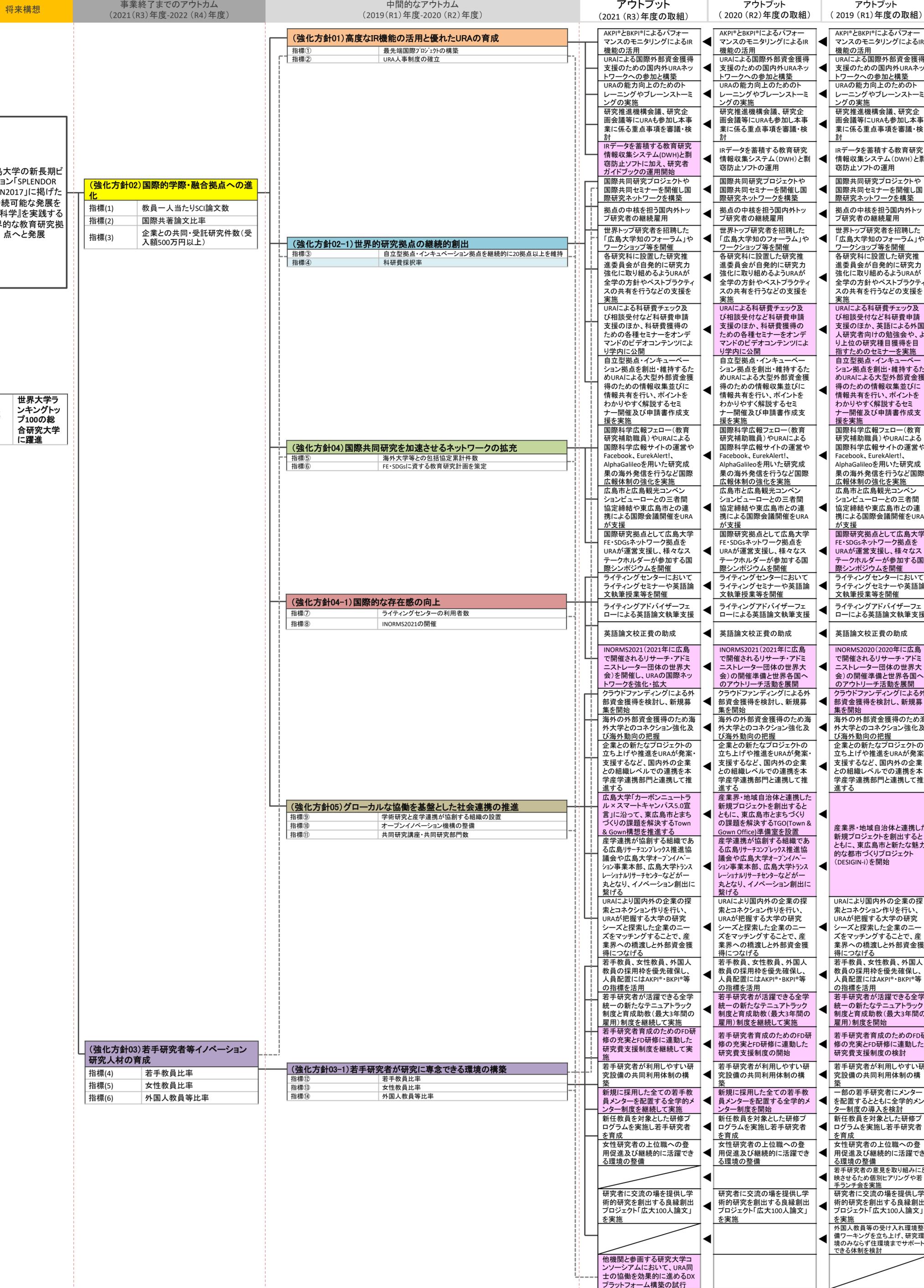
また、コロナ禍において有効的に実施した顕著なURAの取り組みとして、以下の点が挙げられる。

- ・コロナ禍であっても国際広報活動や研究成果の国際発信を継続して実施できるよう、広報担当部門と連携しながら、海外の国際広報サービスを積極的に利用するなど国際的レピュテーション向上のための取り組みを展開した。
- ・広島大学のURAが運営に参画しているライティングセンターでの英語論文執筆支援サービスでは、セミナーやワークショップ、個別相談のオンライン化(海外在住のフェローの活用含む)を積極的に進め、コロナ禍でもサービス提供の量と質を確保することに努めた。
- ・URAによる外部資金申請支援の一環としてコロナ関連の外部資金申請を積極的にサポートした。
- ・海外との研究ネットワーク形成を支援するため、国際会議等の開催経費の助成支援を行ってきたが、コロナ禍において国際会議等の開催が困難となったことから、オンライン開催経費の助成支援やオンライン会議のための動画コンテンツの提供を行った。
- ・研究者のシーズ発掘や研究支援のための個別面談を行っているが、コロナ禍により対面での面談ができないことから、オンラインミーティングを中心に実施した。

【参考】論文の質に係る指標について

	Scopus				WoS			
	2013-2017 平均	2014-2018 平均	2015-2019 平均	2016-2020 平均	2013-2017 平均	2014-2018 平均	2015-2019 平均	2016-2020 平均
国際共著論文率	%	%	%	%	29.29%	31.09%	33.29%	34.69%
産学共著論文率	%	%	%	%	4.29%	4.31%	4.25%	4.26%
Top10%論文率	%	%	%	%	9.4%	9.05%	8.77%	8.34%

広島大学「研究大学強化促進事業」ロジックツリー【概要版】



※ 本事業による取組の効果(他の事業等による影響を受けない)が検証可能である指標

※ 前年度の取組を進展させた繋がりのある取組

広島大学「研究大学強化促進事業」後期ロードマップ

事業実施計画

年度			2018	2019	2020	2021	2022	2023
将来構想	事業終了までのアウトカム	中間的なアウトカム	アウトプット					
広島大学の 新長期 ビジョン 「SPLENDOR PLAN2017」 に掲げた 『持続可能な発展 を導く科学』を 実践する世界的な 教育研究拠点 へと発展	(強化方針 02) 国際的学 術・融合拠点 への進化	(強化方針01) 高度な IR 機能 の活用と優れた URA の育成	AKPI®と BKPI®によるパフォーマンスのモニタリングによる IR 機能の活用			URA による国際外部資金獲得支援のための国内外 URA ネットワークへの参加と構築		
			URA の能力向上のためのトレーニングやブレインストーミングの実施					
			研究推進機構会議、研究企画会議等に URA も参加し本事業に係る重点事項を審議・検討					
			IR データを蓄積する教育研究情報収集システム (DWH) と剽窃防止ソフトの運用			IR データを蓄積する教育研究情報収集システム (DWH) と剽窃防止ソフトに加え、研究者ガイドブックの運用開始		
		指標①: 最先端国際プロジェクトの構築	最先端国際プロジェクトを構築					
		指標②: URA 人事制度の確立		URA 人事制度の確立				
		(強化方針 02-1) 世界的研究 拠点の継続的 創出	国際共同研究プロジェクトや国際共同セミナーを開催し国際研究ネットワークを構築					
			拠点の中核を担う国内外トップ研究者の継続雇用					
			世界トップ研究者を招聘した「広島大学知のフォーラム」やワークショップ等を開催					
			各研究科に設置した研究推進委員会が自発的に研究力強化に取り組めるよう URA が全学の方針やベストプラクティスの共有を行うなどの支援を実施					
URA による科研費チェックや相談受付など、科研費申請支援を実施	URA による科研費チェック及び相談受付など、科研費申請支援のほか、英語による外国人研究者向けの勉強会や、より上位の研究種目獲得を目指すためのセミナーを実施	URA による科研費チェック及び相談受付など、科研費申請支援のほか、英語による外国人研究者向けの勉強会や、より上位の研究種目獲得を目指すためのセミナーを実施	URA による科研費チェック及び相談受付など、科研費申請支援のほか、科研費獲得のための各種セミナーをオンデマンドのビデオコンテンツにより学内に公開					
自立型拠点・インキュベーション拠点を創出・維持するため URA による大型外部資金獲得のための情報収集や申請書作成支援を実施	自立型拠点・インキュベーション拠点を創出・維持するため URA による大型外部資金獲得のための情報収集並びに情報共有を行い、ポイントをわかりやすく解説するセミナー開催及び申請書作成支援を実施							

	指標③: 自立型拠点・インキュベーション拠点を継続的に20拠点以上を維持		20 拠点以上				
	指標④: 科研費採択率		30%				
	(強化方針 04) 国際共同研究を加速させるネットワークの拡充	国際科学広報フェロー（教育研究補助職員）や URA による国際科学広報サイトの運営や Facebook、EurekAlert!、AlphaGalileo を用いた研究成果の海外発信を行うなど国際広報体制の強化を実施					
		広島市と広島観光コンベンションビューローとの三者間協定締結や東広島市との連携による国際会議開催を URA が支援					
		国際研究拠点として広島大学 FE・SDGs ネットワーク拠点を設置し URA が運営支援	国際研究拠点として広島大学 FE・SDGs ネットワーク拠点を URA が運営支援し、様々なステークホルダーが参加する国際シンポジウムを開催				
	指標⑤: 海外大学等との包括協定累計件数			351 件			
	指標⑥: FE・SDGs に資する教育研究計画を策定		FE・SDGs に貢献する教育研究計画を策定				
	(強化方針 04-1) 国際的な存在感の向上	ライティングセンターにおいてライティングセミナーや英語論文執筆授業等を開催					
		ライティングアドバイザーフェローによる英語論文執筆支援					
		英語論文校正費の助成					
		INORMS2020 (2020 年に広島で開催されるリサーチ・アドミニストレーター団体の世界大会) の開催準備	INORMS2020 (2020 年に広島で開催されるリサーチ・アドミニストレーター団体の世界大会) の開催準備と世界各国へのアウトリーチ活動を展開	INORMS2021 (2021 年に広島で開催されるリサーチ・アドミニストレーター団体の世界大会) の開催準備と世界各国へのアウトリーチ活動を展開	INORMS2021 (2021 年に広島で開催されるリサーチ・アドミニストレーター団体の世界大会) を開催し、URA の国際ネットワークを強化・拡大		
	指標⑦: ライティングセンターの利用者数			1,300 件			
	指標⑧: INORMS2021 の開催			INORMS2021 の開催方法決定と開催準備			
	(強化方針 05) グローカルな協働を基盤とした社会連携の推進	クラウドファンディングによる外部資金獲得を検討		クラウドファンディングによる外部資金獲得を検討し、新規募集を開始			
		海外の外部資金獲得のため海外大学とのコネクション強化及び海外動向の把握 企業との新たなプロジェクトの立ち上げや推進を URA が発案・支援するなど、国内外の企業との組織レベルでの連携を本学産学連携部門と連携して推進する					

		産業界・地域自治体と連携した新規プロジェクトの創出	産業界・地域自治体と連携した新規プロジェクトを創出するとともに、東広島市と新たな魅力的な都市づくりプロジェクト (DESIGN-i) を開始	産業界・地域自治体と連携した新規プロジェクトを創出するとともに、東広島市とまちづくりの課題を解決する TGO (Town & Gown Office) 準備室を設置	広島大学「カーボンニュートラル×スマートキャンパス 5.0 宣言」に沿って、東広島市とまちづくりの課題を解決する TGO (Town & Gown Office) 構想を推進する
		産学連携が協創する組織である広島サテック® レックス推進協議会や広島大学オープンイノベーション事業本部、広島大学トランスショナルセンターなどが一丸となり、イノベーション創出に繋げる			
		URA により国内外の企業の探索とコネクション作りを行い、URA が把握する大学の研究シーズと探索した企業のニーズをマッチングすることで、産業界への橋渡しと外部資金獲得につなげる			
	指標⑨：学術研究と産学連携が協創する組織の設置		学術研究と産学連携が協創する組織の設置		
	指標⑩：オープンイノベーション機構の整備		オープンイノベーション機構の設置		
	指標⑪：共同研究講座・共同研究部門数			21 講座・部門	
	指標 (1)：教員一人当たり SCI 論文数			1.48 報	
	指標 (2)：国際共著論文比率			38.0%	
	指標 (3)：企業との共同・受託研究件数 (受入額 500 万円以上)			54 件	
(強化方針 03) 若手研究者等イノベーション研究人材の育成	(強化方針 03-1) 若手研究者が研究に専念できる環境の構築	若手教員、女性教員、外国人教員の採用枠を優先確保し、人員配置には AKPI®・BKPI® 等の指標を活用			
		テニユアトラック制度の整備	若手研究者が活躍できる全学統一の新たなテニユアトラック制度と育成助教 (最大 3 年間の雇用) 制度を開始	若手研究者が活躍できる全学統一の新たなテニユアトラック制度と育成助教 (最大 3 年間の雇用) 制度を継続して実施	
		若手研究者への研究費支援	若手研究者育成のための FD 研修の充実と FD 研修に連動した研究費支援制度の検討	若手研究者育成のための FD 研修の充実と FD 研修に連動した研究費支援制度の開始	若手研究者育成のための FD 研修の充実と FD 研修に連動した研究費支援制度を継続して実施
		若手研究者が利用しやすい研究設備の共同利用体制の構築			
		一部の若手研究者にメン	新規に採用	新規に採用した全ての若手教員メンタ	

		ターを配置するとともに全学的メンター制度の導入を検討	した全ての若手教員メンターを配置する全学的メンター制度を開始	一を配置する全学的メンター制度を継続して実施		
		新任教員を対象とした研修プログラムを実施し若手研究者を育成				
		女性研究者の上位職への登用促進及び継続的に活躍できる環境の整備				
		若手研究者の意見を取り組みに反映させるため個別ヒアリングや若手ランチ会を実施				
		風通しのよい研究環境を醸成するため、若手研究者が研究担当理事と1対1で自由に意見交換できる機会となる「オフィス・アワー」を実施				
			研究者に交流の場を提供し学術的研究を創出する良縁創出プロジェクト「広大100人論文」を実施			
			外国人教員等の受け入れ環境整備ワーキングを立ち上げ、研究環境のみならず住環境までサポートできる体制を検討			
		指標⑫：若手教員比率		21.8%		
		指標⑬：女性教員比率		18.4%		
		指標⑭：外国人教員等比率		44.5%		
		指標(4)：若手教員比率			23.4%	
		指標(5)：女性教員比率				20.0%
		指標(6)：外国人教員等比率				50.2%
					他機関と参画する研究大学コンソーシアムにおいて、URA同士の協働を効果的に進めるDXプラットフォーム構築の試行	

指標 I：世界大学ランキングトップ 100 の総合研究大学に躍進						AKPI®値 1,000 ポ イントを 達成し世 界大学ラ ンキング トップ 100 位以 内を目指 す
-------------------------------------	--	--	--	--	--	---